

「すべてを支配しておられる主」マタイ14：27-33 堀田修一 20・5・3

祈り：「望みを抱いて喜び、苦難に耐え、ひたすら祈りなさい」（ローマ12：12）のみことばを私たちが心にしっかり住ませ、新型コロナウイルスの試練の中で、全能の神が神の時に終息して下さるという望みをなくさず、この試練の中でこそ、主の恵みを数え感謝し、主に救われている恵みを喜ぶ者として下さい。今の苦難に耐える忍耐を与えて下さい。今は一緒に集まって祈る事は出来なくても、それぞれの場で、全世界の一人一人が守られるように、ひたすら祈る者として下さい。

I 主は、全能の神であり、天地万物の創造者であり、また今も、自然界と世界で起こる全てを支配しておられる。

1. 全ての福音書の究極の目的は、この偉大なキリストを示す事に尽きる。私たちのすべての悩みの根源は、主イエスがどのような方かを忘れていた事にある。主から信仰の目を離している事にある。

2. イエスは「来なさい」と言われた。そこでペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスの方に行った。ところが強風を見て怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」そして二人が舟に乗り込むと、風はやんだ。舟の中にいた弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」と言って、イエスを礼拝した。14：29-33。ペテロが、沈みかけた原因は、何だろうか。それは、すべてを支配しておられる偉大な主から目を離して、強風を見たからである。私達は、今、新型コロナウイルスという大きな試練の中に置かれている。この試練、強風の中でこそ、すべてを支配しておられる全能の主、主イエスから目を離さず、主に心から祈り続けたい。

3. 祈りにも、二種類の祈りがある。

①どうせ祈っても祈らなくても変わらないという疑いの不信仰のままで、希望を持たずに祈る祈りがある。これは、主に祈っても、主に目を向けなくて、問題にのみ目を向けた、心が沈みかけたままの祈りである。悪魔は、私たちを失望させ続ける。本日の31節で、主はペテロに言われた。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。

②神が喜ばれるもう一つの祈りがある。それは、どんな大きな試練、自粛、辛抱、忍耐の期間が長引いて失望しそうになる時も、すべてを支配し全能の主を信仰の目を向けて、私達人間には分からないが、主の時に、主が終息させて下さるという主にある希望を持つての祈りである。希望を持った自粛と希望を持たない自粛には、心が折れるか折れないかの大きな差がある。※私は個人的に、終息の鍵は、やはり、治療薬が世界中に行き渡る事と信じ、神を信頼して心から祈っている。日本の為、世界の為、医療体制が整っていないアフリカ大陸や南米の為に祈る。世界は、互いに繋がっている。一つの国が終息しても、それは、本当の終息ではない。インフルエンザも恐ろしい病気だが、治療薬があるので、私達は助かっている。新型コロナウイルスも同じである。恐ろしい病だ。しかし、有効な治療薬があれば、助かる人々が必ず増える。共に、信仰を持って治療薬の為に祈り続けましょう。神が人間を造られた時、人間に医療の知恵も与えられた。命懸けで仕事をされている医療従事者、介護福祉者の方々の為に祈りましょう。仕事が亡くなった人々の為に祈りましょう。お互いと家族が感染から守られるように祈りましょう。ゴールデンウィークも、感染が広がらないように祈りと愛を持って自粛を守りましょう。「自分一人くらい、自粛を守らなくても関係ない」という考えは危険です。一人一人の自粛の結集が終息を早めます。暗い夜にも主のご支配により朝が来ます。主にある希望を持って歩みましょう！共に礼拝、祈り合い、交わりができる日が来ますように！「人間の一番の勉強は、困難を乗り越えることだ」三浦綾子

Ⅱ 主から目を離さないとは、どういう事か。「信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜び（御父に従う喜び、私たち人間の救い）の為に、辱めをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです（今、全世界の試練の中で、主は、御父の右の座で、私たちの為にとりなして下さる）」ヘブル12：2

1. 主イエスは目に見えないので、主から目を離さないとは、主をいつも思う事です。私達の為に十字架で私達が受けるべきすべての刑罰を身代わりに受けて下さり、私たちのすべての罪の赦しを成就して下さった主をいつも思いましょう。最大の敵である死に打ち勝ち、復活され、私達と共におられ、現在の辛い時も支えて下さる主をいつも思いましょう。世の終わりに、再びこの世に来られ、すべての悪のさばきと私達の救いを完成して下さる主を思いましょう。

2. 主から目を離さないとは、主のみことばを読み、味わい、心に蓄える、壁に貼られた主のみことばを、事ある毎に見詰めることです。主のみことばは、私達を強め励まして下さいます。

「今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。…神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪（私達のすべての罪）を処罰されたのです」ローマ8：1, 3。「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義（神の前に無罪、神との正しい関係の回復）と認められるために、よみがえられました」ローマ4：25

「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」マタイ28：20

「神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道（解決の道）も備えてくださいます」Iコリント10：13

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る」イザヤ41：10

3. 主から目を離さないとは、主の模範にならって、一人で静まり祈りの時を持つ事。今は、密の状態で食事をし、祈り合う事は出来ない。私は、最近の「みことばの光」の箇所から励まされた。主イエスは、良く、一人で父なる神と交わり、祈られた。「イエス御自身は寂しいところに退いて祈っておられた」ルカ5：16。「群衆を解散させてから、イエスは祈るために一人で山に登られた。夕方になっても一人でそこにおられた」マタイ14：23。「イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた」マルコ1：35。私達は、今、自肅の時で、知人、友人と集まり、楽しい時を持つ事は出来ない。今こそ、聖書をゆっくりと読み、味わい、神との深い交わり、祈りの時を大切にするチャンスかもしれない。

4. 主から目を離さないとは、主を礼拝する事。本日の33節には、『舟の中にいた弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」と言って、イエスを礼拝した』とある。安息日、主日の礼拝を、神は最も喜ばれる。4月19日から午前7時から奉仕者だけが集まり、礼拝を捧げ、式次第に従い、説教をし、献金も主の恵みに感謝して捧げています。その説教をホームページで午前9時から説教を聞けるようにして来ました。本日から、各自宅で前奏から祝祷、後奏楽まで礼拝を捧げられるように、すべてを録音して、ホームページで礼拝ができます。自宅でも10時半から礼拝されても主は喜ばれる。今後も礼拝のプログラムと賛美の歌詞もお送りします。活用して下さい。私達は、今は、共に集まって礼拝できなくても、霊的に繋がっている。

※証し。神は今の事情をご存知です。礼拝は神に喜ばれる。自宅と同じ礼拝の式次第に添って捧げられる礼拝は、教会の一致を強める。「父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです」ヨハネ4：23。

祈り：私達は、どんな試練の中でも、すべてを支配しておられる主から目を離さず、主を信頼し礼拝できますように！